

火曜午餐会忘年の会

火曜午餐会12月例会を「忘年の会」として、5日12時15分から当部5階大会議室にて開催した。忘年会恒例の演奏会。奈良フィルハーモニー管弦楽団からヴァイオリニスト袴田さやかさんと、ピアニストの岡野弥生さんを迎え、参加者は師走の気ぜわしい中、美しい音色の演奏を聴いて、しばし贅沢な時間を過ごした。

<演奏曲>

①「エナジーフロー」

令和5年3月に71歳で亡くなった坂本龍一氏の代表曲。「この曲を、すべての疲れている人へ」というキャッチコピーと共にTV CMの為に制作された楽曲で、日本中を「癒し」ブームで包んだ。

②ヴァイオリン協奏曲「四季」より「冬」第2楽章

ヴィヴァルディの代表曲。静かに暖炉の前で過ごしていて、外は雨が降っている。弦をはじく音ピチカートが雨の音を表現している。

③「そりすべり」

アメリカの作曲家アンダーソンの管弦楽曲。クリスマス時期には必ず耳にする曲。

④「ジュピター」

イギリスのホルストが作曲した管弦楽のための組曲「惑星」の中で一番有名な曲。平原綾香さんが歌ってヒットした。

⑤「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」(タイタニックのテーマ)

ジェームス・ホナー作曲。1997年に大ヒットした映画「タイタニック」の主題歌で、観た方は聴いただけで情景が浮かぶ名曲。

⑥「オブリヴィオン」

⑦「リベルタンゴ」

アルゼンチン出身の作曲家ピアソラは、タンゴに限界を感じ渡仏。帰国後、エレキギターを取り入れた前衛的な作風等で迫害を受けたこともあったが、クラシック・ジャズの要素を融合させた独自の演奏形態を産み出し人気を博した。

<プロフィール>

袴田 さやか氏 (ヴァイオリン)



京都市立芸術大学音楽学部弦楽科卒業。ヴァイオリンを辻井淳、岩淵龍太郎の各氏に師事。

霧島国際音楽祭に二度、ニース国際音楽アカデミーに三度参加、フランス各地でコンサートに出演。奈良フィルとサン・サーンスのヴァイオリンコンチェルト、八尾フィルとモーツァルトのシンフォニーコンチェルトを共演。ソロリサイタルを二度、Duoリサイタルを三度開催。

クラシックはもちろんポピュラー、タンゴ、叙情歌、演歌、仏教音楽などジャンルを問わず演奏活動している。奈良フィルハーモニー管弦楽団員。

岡野 弥生氏 (ピアノ)



相愛大学器楽学科ピアノ専攻卒業。キャリアリ夏期国際音楽アカデミー(イタリア)や、秋吉台国際

音楽ゼミナール(山口)等で研鑽を積む。これまでにソロリサイタルや室内楽リサイタルを開催のほか、奈良フィルハーモニー管弦楽団や檜原交響楽団とピアノ協奏曲を共演。また、奈良市キッズコンサートや大阪市子育て事業「ママのためのお気軽クラシック」などに出演。香芝市ふたかみ市民オペラの伴奏も務める。アンサンブルcoto、かりんからん、各ピアノ奏者。奈良フィル所属ピアニスト。

特定非営利活動法人奈良フィルハーモニー管弦楽団

奈良フィルハーモニー管弦楽団は「奈良にプロ・オーケストラを」と、志ある音楽家たちが集い、1985年に初代団長(故)全良雄氏が創立。現在大原末子氏が団長に就任。

メンバーは、高度な音楽教育を受け、ソロやアンサンブル等にも活躍する他、

積極的に後進の指導にもあたっている。その音の美しさ、緻密なハーモニーと高い芸術性は聴衆から高く評価をうけている。第26回定期演奏会は日本を代表する指揮者秋山和慶氏を迎え好評を博した。重厚なクラシック・スタイルから親子向けファミリーコンサート、そしてレクチャーコンサートからサロンコンサートまで、幅広い顔を持つオーケストラとして奈良県内に広く親しまれている。奈良県をはじめとして県内自治体主催のイベント、フェスティバルに、また県内各所の文化会館やホールの主催公演にも数多く出演し、地域の文化芸術の発展に貢献している。県外においても、近畿一円の公共団体から招かれ各地で演奏活動を行っている。正指揮者に栗辻聡氏を音楽アドバイザーに延原武春氏を迎え更なるステップを目指し名実ともに「わが町・奈良のプロ・オーケストラ」として多くの県民の強い支持を得ている。全国32番目のプロ・オーケストラとして日本オーケストラ連盟に籍を置く。